

平成24年6月 第312号
大代地区コミュニティ推進協議会
(広 報 部)

事務局：大代地区公民館（生涯学習課分室）
TEL022-368-1141（内線510）

ふれあい

掲 載 目 次

- 人物往来（第六回目） 1
- このころの健康のためにできること② 3
- 感謝の気持を力に!! 1
- こみプロ情報（二） 3
- 震災の日の私 2
- 婦人防火クラブから総会のお知らせ 4
- 震災から学んだこと学ぶべきこと 2
- 大代の歩み（四十七） 4

大代地区の世帯数（平成24年4月30日現在）：東区337、中区315、西区277、北区119、南区580、合計1,628

人物往来（第六回目）

大代中区町内会

会長 小野 菊郎

東日本大震災から一年二ヶ月が過ぎましたが、未だ物心両面で癒えない傷跡を残しております。しかし、語り継がなければならぬこともあります。そこで今回は、津波に遭遇し体験されたお二人についてご紹介します。

本郷京子さんは、暁流家元として活躍されており、施設等を定期的に回られ慰問活動をされております。震災当日は、公民館からお弟子さんを送り、帰宅後津波に遭遇し、助け合いながら避難するという体験をされました。

佐藤洋子さんは、グループホーム貞山みよりの家の所長さんとして認知症の方々をお世話されております。3・11は、車を運転中に地震、津波に遭遇し、生死を分ける状況の中を津波と戦い、必死になつて逃げ場を求め、多くの方々を命を救つて頂いたという経験をされました。

ご本人にとつて思い出したくないこともあったようですが、風化させることなく大切に伝えたい気持ちからご協力頂きました。心から感謝申し上げます。

感謝の気持を力に!!

大代中区 本郷 京子

千年に一度の大災害から早一年が過ぎました。3月11日、あの日私達は、二日後の公民館まつりに

向けて各種団体の皆様と設営の準備をしておりました。すると不意に激しい揺れと地鳴りが襲つてきたのです。そして、揺れが収まった後直ぐに会員の安否確認に回りましたが、帰ってくる途中に車ごと津波で流されてしまいました。その後何とか車から脱出し、小さな奇跡が幾つか重なったお陰で九死に一生を得て助かりましたが、普段と変わらない生活から思いもよらない大津波によつて犠牲になられた方に慎んでご冥福をお祈り申し上げますとともに、今尚大変な思いをされている皆様に心よりお見舞い申し上げます。

私は、今回の震災で助かった命を使命に変えて、世の中の役に立ちたいと会員共々心をついに、一致団結して前に進もうと決意しました。私達の出来ることは微力ですが、私達の舞を見てほんの少しでも元気になつてほしいと思ひ行動を起こしました。その結果、震災から2ヶ月過ぎた頃から次々に慰問の予定が入るようになりました。

私達の会員の中でも半数の人が災害に遭い、5人の人が家を流されて全てを失い、ゼロからのスタートとなりましたが、地域の皆様や全国からの応援自衛隊や海外からの大きな支援を頂いたことによつて、復旧、復興が早くなつていくように思います。本当に感動させられると同時に強い絆を感じました。心より感謝申し上げます。

東北の復興はまだまだ時間が掛かると思いますが、共に励まし、共に前へ、元気な姿で新たな一歩を！ またきつとあの住み良い多賀城大代地区になることを信じて進んでいきたいと思ひます。

震災の日の私

グループホーム貞山みよりの家

佐藤 洋子

平成23年3月11日の東日本大震災において、津波に遭遇した私を多くの方々に助けて頂きましたことに對し、心より感謝申し上げます。

当日は、午後から仙台に向かつており、その後地震に遭遇しました。今まで経験したことのない揺れでしたので車から降りましたが、立えずに体が飛ばされ長い揺れだったことを覚えています。

落ち着いてから車のラジオをつけると津波警報が流れており、とにかく強い揺れ、余震が頻繁に続きましたのでホームの利用者様、スタッフが心配になり戻ろうと思って45号線に向かいましたが、車が何重にも重なっており、パニック状態で動きが取れませんでした。

産業道路に出ると、45号線よりは車が動きましたが、道路の歪みがひどく、車も入る隙間がなく、やっとの思いで多賀城ソニー会社の近くまで来ることが出来ました。辺りを見ると皆が車から降り、血相を変えて叫び走って行くのです。皆どうしたのかな？何かただごとではないかと感じつつ警報も聞こえなかったので、栄町の辺りまで進みましたがすると前方に白い小波が見えたのです。地震で水道管が破裂したのかなと自分なりに判断したものの、とにかく嫌な予感がありました。

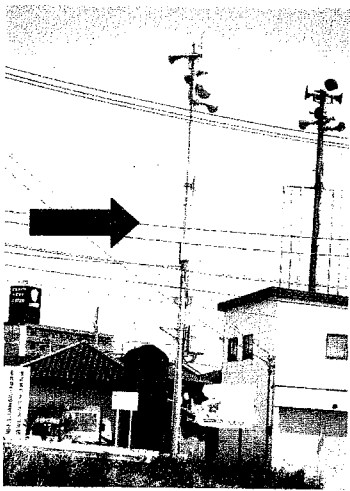
まもなく、どこからか「車から降りろ」との叫び声が聞こえました。直ぐに車から降りると、足元

に小波が流れて来るや次に真つ黒い水が来て車と私、何が起きたのか分からないまま流されてしまいました。その時自衛隊の方も流されておられ、私を近くの物置まで引つ張って屋根の上へ上げて下さりましたが、水が勢いよく増してくるため、2階建ての1階部分の屋根の上へ上げて頂いたお陰で助かりました。

周りは車が次々と流され、人も流され「助けて〜」の叫び声、車が浮き輪のように浮いている、あの時の様子はまだ目に焼き付いております。

ガス、石油タンクの爆発した炎が周りの油水に移ったのか火の海、頻繁に繰り返す余震、満潮、雪が降ってくるなど最悪の状態がいつまでも続き、泥だらけで濡れた体が寒さに震え何度も「死」を覚悟したこと、今は早く忘れようと努力しています。幸い利用者様に怪我もなく職員も無事であることを確認し安堵致しました。今日あるのは、自衛隊の方と多くの方々のお陰と感謝しております。

震災から一年が過ぎましたが、犠牲になられた方々のご冥福とご家族の方々へ心からお悔やみ申し上げます。



(矢印) 新たに設置された放送装置 (右側は、これまで使用されていたスピーカー)

震災から学んだこと学ぶべきこと

大代中区町内会

会長 小野 菊郎

大震災から14ヶ月が経過しました。中区でも4月22日小野屋ホテルにおいて52名の出席者で総会を開催しました。24年度は、防災訓練と健康増進を主体に住民相互の絆を強くすることに集約した事業を計画しました。

津波被害による建物の解体世帯数は70、修繕世帯数は126を数え、住民の経済的基盤の損失と精神的な痛手は計り知れません。公的な支援と各方面から寄せられた物心両面のご支援には深く感謝申し上げます。犠牲になられた方々には心よりご冥福をお祈り申し上げますとともにご家族の皆様へ心よりお見舞い申し上げます。被災者として、全国の方々に1日も早く復旧後の姿をお見せしたいと願っております。

近頃は、東海、東南海、南海或いは首都圏直下型の大地震、大津波発生を専門家が警告されておりますが、東日本大震災(宮城県沖)も発生が予測され行政、住民へ防災対策の必要性を啓発しております。しかし、日本地震学会は、健全な批判精神が欠如していたと自己反省し、発生確率の予測よりも地域で発生し得る最大規模の地震や津波の調査をするべきだったと総括しました。自然災害で発生する甚大な被害を防止する手段は私達にはありません。今回無力な現実を経験しましたが、身体が無事であったことが復旧につながりました。

自助の判断は的確でなければなりません。継続した訓練から身体に覚え込ませる必要があります。

宮城県及び多賀城市は、多重防壁により津波被害をなくす復興策を計画推進中ですが、私達住民は、自らを守ると同時に地域社会の安全を築くことに目を向け、行動を起こさなければなりません。

大代地区には下水道浄化センター、JX日鉱日石東北電力、仙台市ガス局等自然災害にも安全を期さなければならぬ企業が立地しております。また仙台港、貞山運河、砂押川も自然災害時は牙を剥き、住民の生活を破壊する武器を持った自然環境に囲まれております。水路の最下流部に位置する成せる業です。常に危険と隣り合わせで生活しているという認識を新たにしなければなりません。

昨年来経験したことです(行政(議会も含め)、企業等から被害の状況、復旧状況、防止対策、地域への影響等について説明を求めるとの難しさを身にしみて感じました。一住民の声を責任者は真摯に聞く姿勢が求められています。

多賀城市においては、復旧復興策を計画して新しい街づくりを進めておりますが、現場に足を運び話し合いをする度量を責任者には声を大きくして求めます。

今回は、地震の被害より津波の被害が大きく、過去の災害とは比較できず、多岐に亘る防災の難しさがありました。自然災害は、防ぎようがないという諦めや慣れが一番禁物です。防災訓練を重ね、心身共に鍛えておかなければなりません。

東北地方で発生した震度7以上の地震は、118

2年間(西暦830年)現在2012年)で48回発生しております。日本は地震国です。自助とは、物心両面で非常時に備えておくことです。日々心しておきたいものです。

こころの健康のためにできること②

大代西区 佐藤 聰子

初夏の陽気が感じられ、過ごしやすい季節となりました。温かくなったらいろいろやりたいことを考えているご家庭も多いのではないのでしょうか。

今回は、子供達に目を向けたこころの健康についてお話ししたいと思います。

子供は不安感が強いと、年齢より幼い振る舞いをするなど、普段とは異なる行動をとることがあります。周囲の大人は、一緒にいる時間を増やすことやスキンシップを増やすことで、安心させてあげることが大切です。また、大人の不安感の子供に伝わるもので、保護する大人が落ち着くことも大切です。

子供は、「津波遊び」や「地震遊び」といった遊びや絵、お話しの中で災害を再現することがあります。心の痛みを表現することが上手くない子供達なりの心の癒し方だと考えられています。このようなときは、無理にやめさせず見守ってあげましょう。その一方で、無理に作文を書かせたり、絵を描かせたりしないようにしましょう。

傷ついた子供への望ましい対応

- できるだけ子供が一人にならないようにする。
- なるべく規則正しい生活を送るようにする。

○行動に変化があっても叱らず、気持を受け止める。

○抱っこするなどスキンシップをとる。

○よく話をする。乳幼児には声かけを多くする。

○話をよく聞いて、気持ちを理解するように努める。

(無理には聞き出さない)

○災害の事を思い出させるもの(テレビなど)を必要以上に見たり、聞いたりさせないようにする。

最後に、親へのサポートが間接的に子供へのサポートになります。前述しましたが、保護者の不安感は、子供に伝わります。保護者をサポートして、子供を十分に支えられるようにすることは、結果として子供を助けることに繋がります。周りの人は、保護者は家族を守ろうとする責任感や将来への不安から大きなストレスを抱えていることを理解して、サポートして行きましょう。

こみプロ情報(二)

大代コミュニケーション推進協議会

事務局 高橋 秀秋

平成23年度の住民自治形成基盤プロジェクト(こみプロ)の学習会は、3月21日で終了しましたが、平成24年度も引き続き協議会役員等を中心に勉強していく予定です。先月作業部会を開き、今後どのような内容の勉強が必要かについて検討致しました。直面する地域の課題を解決し、自治力をアップするための勉強と指定管理者としてコミュニケーション推進協議会が公民館を管理・運営していく上で必要なことを实际的に捉えて勉強していくことと

いうことでまどまりました。

今後は、各町内会の事業とも関連することが出てくると思いますので、協力して実施できるような情報をお伝えして参りたいと思っております。

婦人防火クラブから総会のお知らせ

大代地区婦人防火クラブ

会長 後藤 重子

こんにちは、当クラブは、全戸加入になっており、皆様のご意見、ご協力お頂きながら会の運営を行っております。

左記の日程により総会を行いますので、多数の方々の参加をお待ち致しております。

記

日時 平成24年6月8日(金) 午後8時から

場所 第6分団ポンプ置場(大代地区公民館前)

※ 総会終了後、大代駐在所長の武田様より「震災について」の講話を頂きます。

大代の歩み(四十七)

大代南区 渡邊 巖

明治二〇年代は、二二年の洪水と二九年の凶作である。

二二年の洪水は七北田川が氾濫し、岩切・多賀城・高砂などの低地盤地帯は道路、田園の区別なく一面に湖海の状態となり、二九年の凶作もほぼ同様であった。

明治三〇年代にも二度の大凶作に見舞われた。明治三五年の凶作は、平年比較約六四%の減収で農村が困窮に沈んでいる所へ、翌々三七年に日露戦争の勃発で常備軍は勿論、予備役・後備役から国民兵に至る迄召集され、農耕馬は軍馬として徴発された。これらによる労働不足と経済支出などで農村の疲弊が極限に迫っているのに、追い打ちをかけるように明治三八年も凶作に襲われたのである。この年は六月下旬から八月にかけて低温多湿の日が続き、稲の生育が遅れるという典型的な冷害となった。しかもこの影響は、収穫高が回復しないまま明治四一年まで続いたのである。

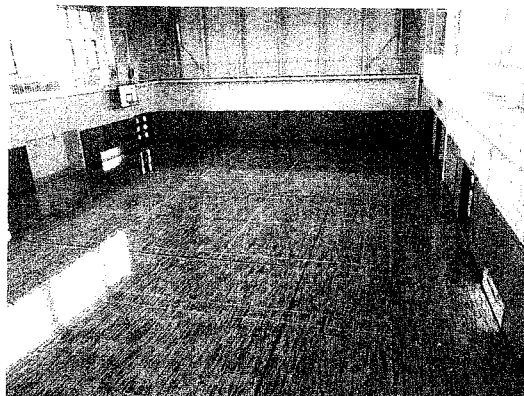
これらの凶作は、県下全域に被害を及ぼしたが、多賀城・塩竈・岩切の三ヶ町村だけをみても収穫高は平年作の一〇%台に達しただけで農民の経済状況は少しも好転せず、むしろ小作農民の困窮度は増して地主階級との経済格差は大きくなり、小作農地の減少と地主の増加は著しく、農地の所在地と地質にもよるが当時の多賀城村では、耕作農地面積が五町歩以上の在村地主数は、南宮(九名)が最多で、一町歩以上の不在地主数は塩竈(二一名)であった。因みに前記以外の地区の在村地主数は五人以下で、大代、下馬・山王・東田中は一人未満(簿外)であるが、存在位置の特性上やむを得ないのかもしれない。

この様な社会状況のまま時代は大正から昭和と遷るが、文明開化とともに輸入した社会主義と共に農民の階級を絡んだ労働争議へと繋がってゆくのである。

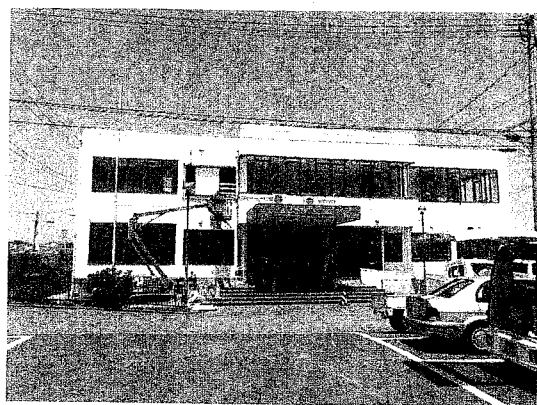
続く

お知らせ

公民館は、8月1日オープンを目指し工事が進められております。5月20日現在の進捗状況についてお知らせします。



体育館床板の工事が完了し、きれいに磨かれています。
壁及び扉の補修工事は終了しています。



正面玄関のガラス戸が取り付けられ、階段付近の補修工事も行われました。
現在、エアコン室外機を取り付け中